
青い本能

キイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青い本能

【Nコード】

N2554C

【作者名】

キイ

【あらすじ】

目が覚めると周りは青く。上は騒がしく、明るい。ならば下へと行ってみようか。そんな俺の本能は青く。

（前書き）

この小説は企画小説です。

「場所小説」で検索していただけると他の作者様の小説も読めます。

目を覚ますと、青の世界……それとも視界が青いのか？ 青といっても、絵の具で塗りつぶしたような単純な青ではない。青色透明、といえるだろう。

「ここはどこなんだ？」

お決まりの台詞だつて出てくる程に、謎なのだ。ここへ来る前に何をしていたのかも思い出せない。

まるで、海にいるような感覚。しかし、息苦しくもなく、水に濡れた冷たさや衣服の重さもない。

くるくる回つて、泳いでみた。動きは軽やかだ。簡単に泳げる……、つまり浮いているのか？ それにしても、不思議と落ち着くこの温度。どこかで感じたことのあるような……。母親に抱き締められたとき？ いや、違う。わからない。わからないけれど、なんだか心地よくて、ここがどこなのかなんてどうでもよくなってきた。辺りを見回して気付いた。上へ行くほど明るい青に。そして下へ行くほど暗い青になるようだ。

落ち着くとはいえず、さすがに暗い青に行くのは不安を感じた。そうすると必然的に、体は上へ向かう。

上へ行くほどなんだか騒がしくなってくる。先程の空間はほぼ静寂に近い状態だったから、そこまで騒がしくなくとも、騒がしく感じてしまう。心地よいはずなのだが、これ以上上に行けば、心地さが壊れる気がしてやはり下へと移動した。

深く、暗い青。自分まで溶けていきそうな青は、先程の不安も溶かしてしまったのだろうか。今までで一番心地よいのだ。

本能だろうか。溶けてしまいたいとさえ思えてきた。

（もっと下へと進めば、溶けてしまうのだろうか……？ それなら本望）

そして、その思いに従おうと、体を動かした瞬間。

物凄い勢いで体は明るい方へと引つ張られていく。そしてしだいに、騒がしくなり……

「……っ……おきろっ」

微かに声が聞こえた。

「おいっ！」

声は大きくなる。
そして。

バシッ

あまりの痛みに声も出ず、目を開けるとそこには、

（後書き）

クラスメイトの笑い声と視線と、怒りに満ちた先生が仁王立ちする姿があった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2554c/>

青い本能

2010年10月14日00時53分発行